

二世帯住宅に住む親世帯と子世帯の 交流実態と意識

東京ガス株式会社 都市生活研究所

はじめに

近年「二世帯住宅」が注目されています。その理由として若年層の所得の減少などの経済的事情が考えられますが、昨今「仲良し親子」と呼ばれるような親子の親密な関係も少なからず影響しているのではないのでしょうか。

東京ガス都市生活研究所が親世帯と子世帯の二世帯間関係を調査したところ、最も交流が活発となるのは子世帯に12歳以下の子供（親世帯からみた孫）がいる場合であることが分かりました。

そこで、12歳以下の子・孫がいる世帯に絞り、二世帯住宅における子育てや家事の実態と意識から、親世帯・子世帯それぞれにとっての二世帯住宅の価値を探りました。

資料編を含めた全文は、<http://www.toshiken.com/> 調査概要及び調査対象は、次の通りです。

調査時期：2013年3月

調査方法：インターネット調査

調査対象：一都三県在住

二世帯住宅居住の親世帯と子世帯

回答者数：300名

調査対象	親世帯	子世帯
(1)回答者年齢	50～69歳	25～44歳
(2)世帯の構造	配偶者と同居。核家族。	配偶者及び0～12歳の子供と同居。核家族。
(3)同居の有無	二世帯住宅または同一敷地内の別の戸建住宅に既婚の子世帯と住んでいる。	二世帯住宅または同一敷地内の別の戸建住宅に親世帯と住んでいる。
(4)相手世帯について	(3)の子供が20～44歳で夫婦同居しており、0～12歳の孫がいる。	(3)の親が夫婦同居しており、どちらも50～74歳。
(5)交流頻度	(3)の世帯の誰かと会う頻度が週1回以上かつ両世帯全員が集まる頻度年1回以上。	(3)の世帯の誰かと会う頻度が週1回以上かつ両世帯全員が集まる頻度年1回以上。

図1 調査対象

1. 親世帯と子世帯の交流実態と意識

1-1 二世帯を選んだ理由

同居ではなく二世帯住宅にした理由は、親も子も、「プライバシーや生活のペースを大切にしたい」から

完全同居ではなく二世帯住宅を選んだ理由を尋ねたところ、親世帯も子世帯も「お互いのプライバシーを守りたいから」が7割前後で最も高くなりました。次いで「価値観や生活習慣が異なるから」「自分達の生活のペースを変えたくないから」が高く、自分たちの生活スタイルをなるべく変えたくないという意識がうかがえます。

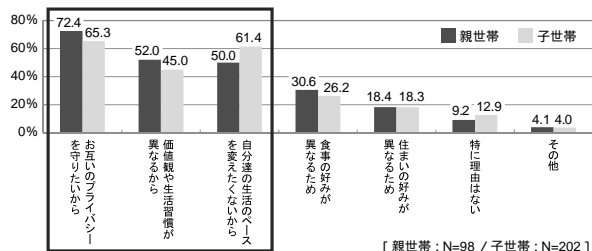


図2 完全同居ではなく二世帯住宅にした理由(複数回答)

二世帯住宅を希望した理由は、親子とも「育児支援」「経済面」

子世帯は「親の老後支援」も上位

二世帯住宅を希望した具体的な理由を見ると、「育児支援のため」が5～7割弱、「土地・住宅取得費が少なく済むから」が5割弱、「病気やけがの時に助け合えるから」が4～5割弱と、両世帯で高くなっています。さらに、親世帯は「孫の成長が見られる」、子世帯では「親世帯の老後支援」も高くなっています。自分たちの生活のペースを大切にしながらも、お互い助け合いたい意識が高いことが分かります。

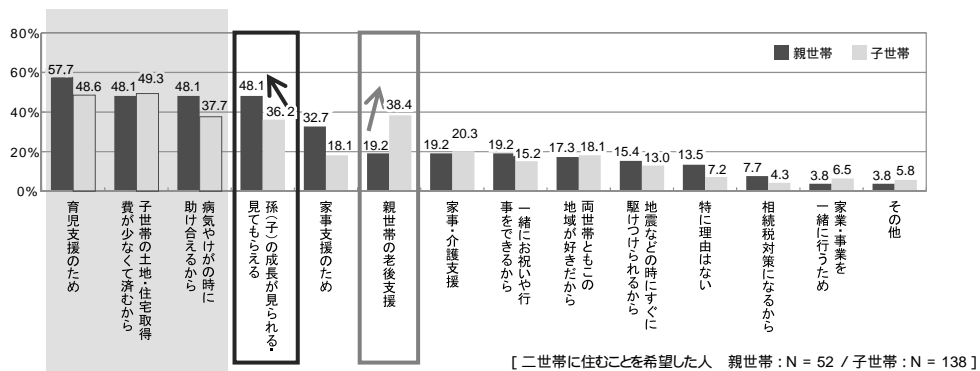


図3 二世帯住宅を希望した理由(複数回答)

1-2 親世帯と子世帯の交流内容と交流頻度
調査対象の約8割が、ほぼ毎日相手世帯と会っている

本研究では親子二世帯間の交流を明らかにするため、調査対象を「相手世帯の誰かと会う頻度が週1回以上かつ両世帯全員が集まる頻度が年1回以上」としています。はじめに交流頻度を確認したところ、「相手世帯の誰かと会う頻度」は「ほぼ毎日」が8割近くに上ります。また「両世帯全員が集まる頻度」についても半数以

上「週に1回以上」と答えており、高い頻度で会っています。

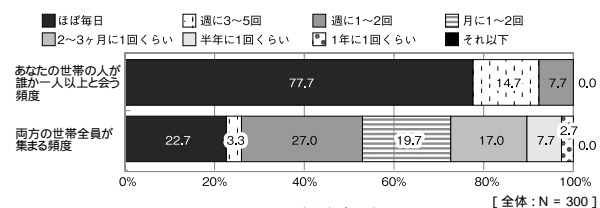


図4 交流頻度

	ほぼ毎日	週に3~5回	週に1~2回	月に1~2回	2~3ヶ月に1回くらい	半年に1回くらい	1年に1回くらい	それ以下・行わない
親世帯のスペースで預かる	18.4	17.3	28.6	20.4	5.1	2.0	1.0	7.1
送り迎えをする	9.2	12.2	15.3	14.3	8.2	3.1	5.1	32.7
お風呂に入れる	5.1	4.1	14.3	16.3	9.2	6.1	4.1	40.8
子世帯のスペースで面倒を見る	4.1	9.2	7.1	12.2	9.2	5.1	5.1	48.0
親世帯のスペースで泊ませる	7.1	0.0	5.1	7.1	9.2	13.3	5.1	53.1
勉強を教える	4.1	6.1	9.2	14.3	3.1	0.0	1.0	62.2
一緒に料理をする	1.0	0.0	10.2	16.3	5.1	2.0	2.0	63.3
自分が得意なことを教える	3.1	1.0	8.2	10.2	2.0	4.1	1.0	70.4
お弁当を作る	2.0	0.0	2.0	3.1	3.1	2.0	2.0	85.7
子世帯のスペースに泊まって面倒を見る	0.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	91.8

図5 孫との関わり 親世帯が行うこと [親世帯: N = 98]

家事支援は「買い物」「料理」「ゴミだし」など。親世帯が子世帯の家事を手伝う割合が高い

日常的に手伝う家事を見ると、全体的に親世帯の方が子世帯の家事を手伝う割合が高く、特に、「ゴミだし」「洗濯の取り込み」などは親世帯が手伝う割合が高くなっています。朝のゴミ出しや、日が陰る前に洗濯物を取り込むなど、タイミング良く行う家事は在宅時間が長い親世帯がやりやすいからだと考えられます。

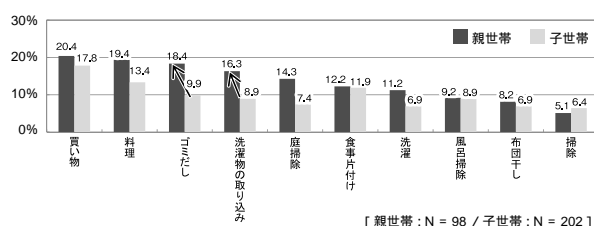


図6 日常的(平日)に手伝う家事

親の育児支援は「孫を預かる」「送り迎え」「お風呂に入れる」が上位

二世帯住宅を希望した理由の上位に「育児支援」が挙げられているので、具体的にどのような支援を行っているかを親世帯に尋ねたところ、最も多かったのは「親世帯のスペースで預かる」で、6割以上が「週に1回以上」孫を預かっています。また、「送り迎え」「お風呂に入れる」は「週に1回以上」が約3割を占め、仕事等で帰りの遅い子世帯に代わって、孫を迎えに行ったり、預かっている様子うかがえます。

1-3 二世帯住宅居住に対する評価
二世帯住宅の良さは親子とも「孫の成長を見られること・見せられること」。特に親で高い

二世帯住宅に住むことの良さは「孫の成長を見られる/見せられる」が両世帯で最も高く、特に親は9割近くと非常に高くなっています。続いて「病気やけがの時助け合える」「育児を手伝える/手伝ってもらえる」などが挙げられており、二世帯住宅を希望した理由の上位項目と同じものが並んでいます。

親世帯が子世帯よりも高い項目は「一緒にお祝いや行事ができる」のように、「楽しい時間」や「モノ・情報の共有」であるのに対し、子世帯が親世帯よりも高い項目は「～してもらえる、あげられる」ものが多い点に、両世帯のお互いへの意識の差が表れていると言えるでしょう。

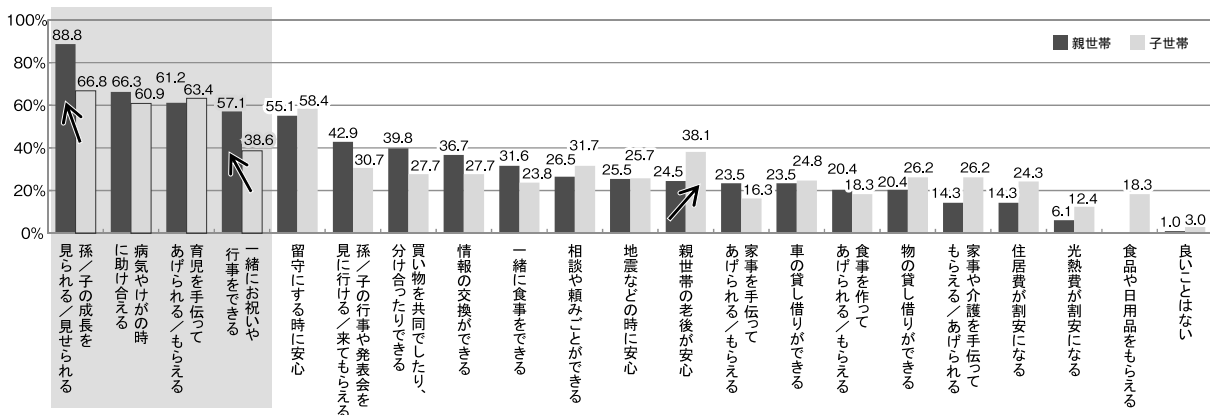


図7 二世帯住宅に住んでいることの良さ

[親世帯 : N = 98 / 子世帯 : N = 202]

親世帯が感じるデメリットは、「生活のペースを乱される」「経済的負担が増える」

子世帯が感じるデメリットは、「子育てに干渉される」「生活のペースを乱される」

二世帯住宅の良くないことを見ると、共通しているのは「生活のペースを乱される」。これに、親世帯には「経済的負担が増える」「相手世帯の行動が気になる」。

子世帯には「子育てに干渉される」「自由に友人を呼べない」「音を立てないように気を使う」が加わります。生活のペースを変えたくないことから、完全同居ではなく二世帯住宅を選んでいますが、二世帯住宅でも自分のペースで自由に生活することは難しい場面も多いようです。また、親世帯は孫がいて嬉しい反面、世話に疲れるときもあることが分かります。

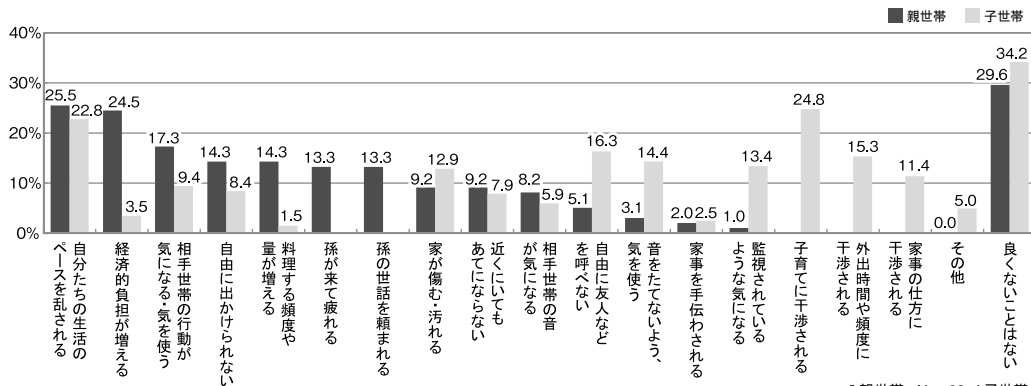


図8 二世帯住宅に住んでいて良くないこと

[親世帯 : N = 98 / 子世帯 : N = 202]

親世帯の方が、気を付けていることが多い

相手世帯との交流について気を付けていることを見ると、親世帯は子世帯に比べ気を付けていることが多く、特に「生活全般や孫の育児などに口を出さない」ことに関して、とても気を使っています。また、外食や

旅行費用を支払うなど、経済的な負担もしています。一方子世帯は、約4割が「気を付けていることはない」と回答しており、子世帯は親世帯に甘えている部分があるようです。

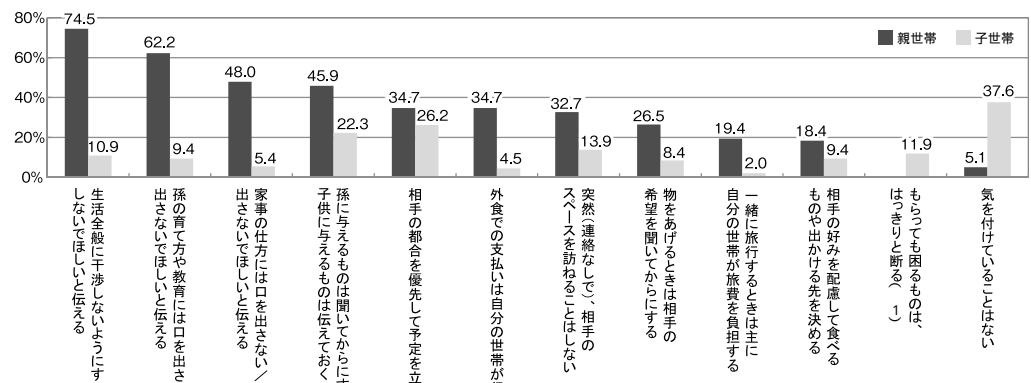


図9 相手世帯との交流について、気を付けていること

(1 子世帯のみの選択肢)
[親世帯 : N = 98 子世帯 : N = 202]

**満足度は親世帯の方が高く、約8割が「満足している」
相手世帯への感謝は子世帯の方が高く、約9割**

満足度は子世帯より親世帯の方が高い傾向にあります。親世帯の多くは「孫の成長を見られること」を二世帯住宅のメリットに挙げており、孫と関わることが

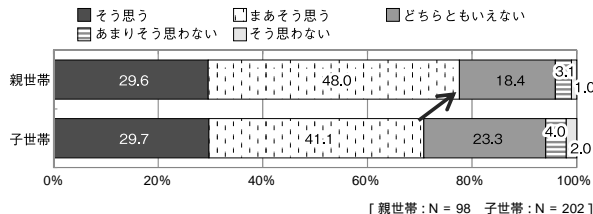


図10 二世帯住宅に住んでいることに満足している

満足度の高い要因になっていると考えられます。

子世帯は、親世帯から育児・家事支援を受けているためか、親世帯への感謝の気持ちが大きく「親世帯に感謝している」と答えた(そう思う+まあそう思う)子世帯は9割を超えます。

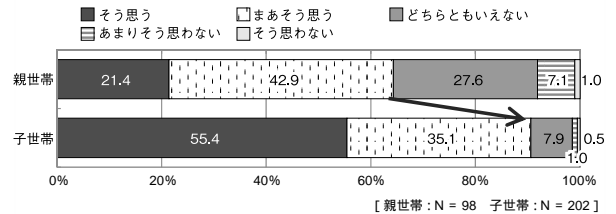


図11 相手世帯に感謝している

2. 「娘世帯との二世帯住宅」と「息子世帯との二世帯住宅」の比較

以下では、親世帯と娘世帯の二世帯を「娘二世帯」、親世帯と息子世帯の二世帯を「息子二世帯」と表記します。

2-1 二世帯住宅を選んだ理由

二世帯住宅を希望した理由は「娘二世帯」の方が多い

二世帯住宅を希望した理由は、「娘二世帯」の方が「息

子二世帯」に比べ高い項目が多く、「娘二世帯」の方が「育児支援」を中心に様々なことを期待して二世帯住宅を選んでいるようです。

一方、「家業を行うため」「相続税対策」は「息子二世帯」の方が高くなっています。

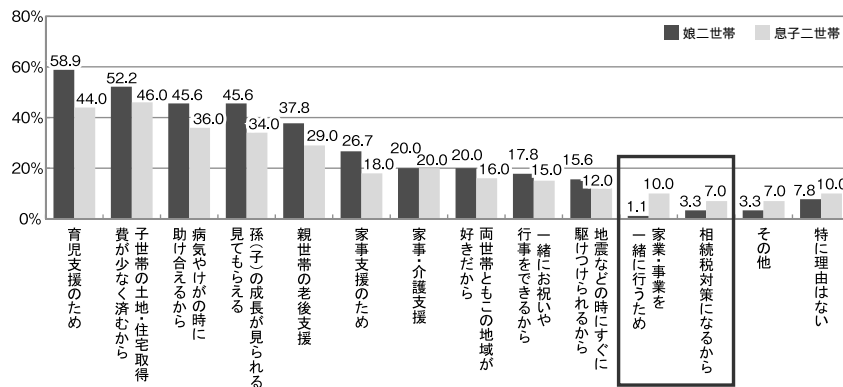


図12 二世帯住宅を希望した理由(相手世帯の種類別)

2-2 親世帯と子世帯の交流内容と交流頻度

交流頻度は「娘二世帯」の方が高い

子世帯との交流頻度は、「息子二世帯」より「娘二世帯」の方が高くなっています。家族全員が集まる頻度や息子や婿と会う頻度は大きな差はないが、「息子の子

供」に対し「娘の子供」は17ポイント、嫁に対し娘は23ポイント高くなっています。息子の配偶者である嫁よりも、実の子供である娘や、娘の子供の方が遠慮なく接することができるということでしょうか。

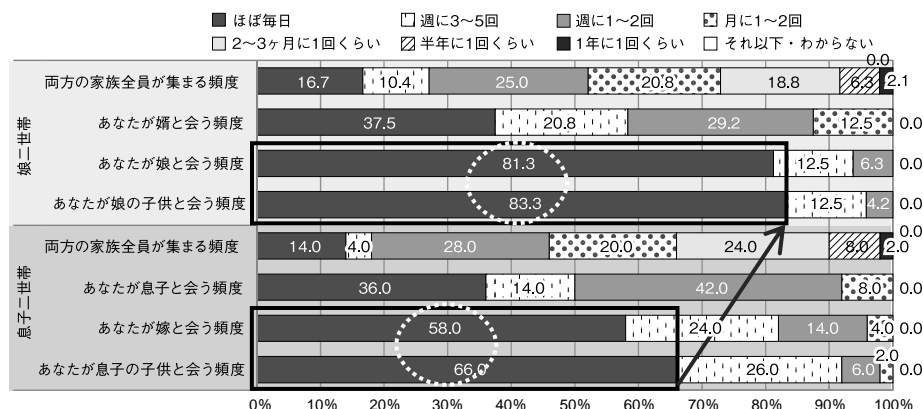


図13 子世帯との交流頻度【親世帯】

親の育児支援は「娘二世帯」の方が活発

図5で示した親による育児支援のうち実施頻度の高かった「孫の預かり」と「送り迎え」について見ると、どちらも「娘二世帯」の方が「息子二世帯」よりも頻度が高いことがわかります。特に「送り迎え」を週に1回以上行っている割合は、「息子二世帯」24.0%に対し、「娘二世帯」50.0%と、2倍以上です。

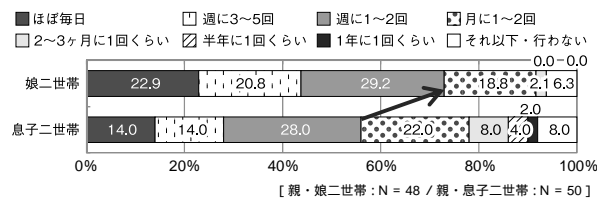


図14 親世帯のスペースで孫を預かる頻度【親世帯】

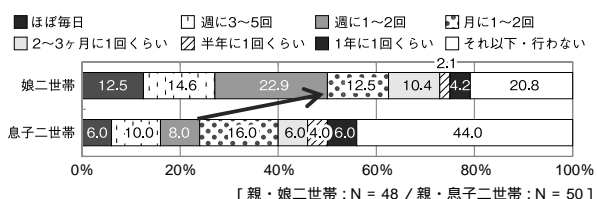


図15 孫の送り迎えをする頻度【親世帯】

親の家事支援も「娘二世帯」の方が活発

日常的に手伝う家事を見ても、「娘二世帯」の親の方

が活発に支援を行っていることがわかります。特に「買い物」は「息子二世帯」との差が大きく、日常の買い物は女性が行くことが多いと考えられますが、母と娘の方がお互いの好みを良くわかっていて、娘は母に買い物を頼んだりしやすいのではないのでしょうか。また、子世帯も同様の傾向です。

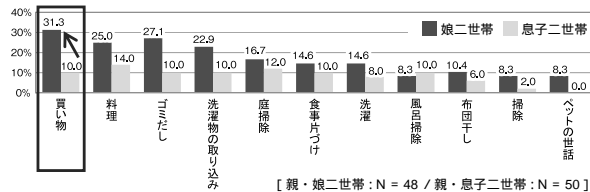


図16 日常的(平日)に手伝う家事【親世帯】

2-3 二世帯住宅居住に対する評価

親子とも「娘二世帯」の方が二世帯に住む良さを強く感じている

二世帯住宅の良さを聞いたところ、親子ともに「娘二世帯」の方が高い項目が多くなりました。特に「買い物」を共同でしたり分け合ったりできる」は家事支援でも見られたように、「息子二世帯」との差が大きいです。最近の母と娘は大人になっても仲が良く「母娘消費」が活発と言われますが、日常の家事においてもそういった傾向が見て取れます。

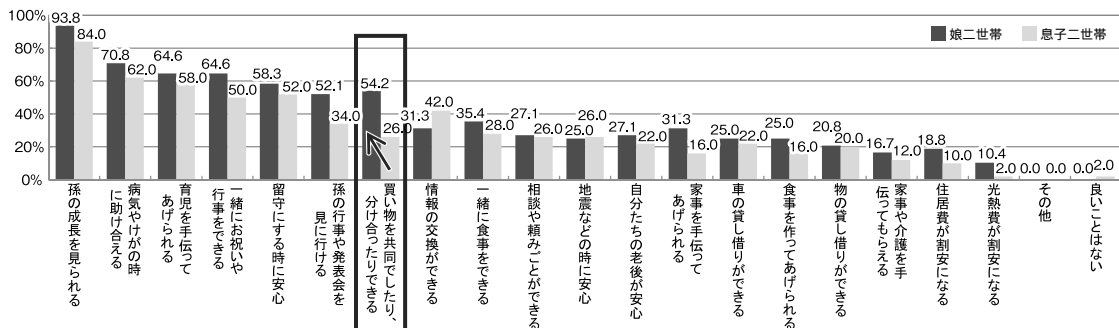


図17 二世帯住宅に住んでいることの良さ【親世帯】

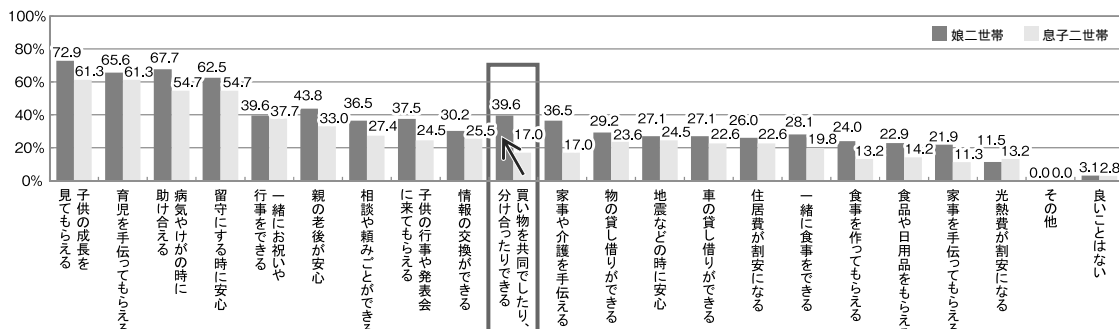


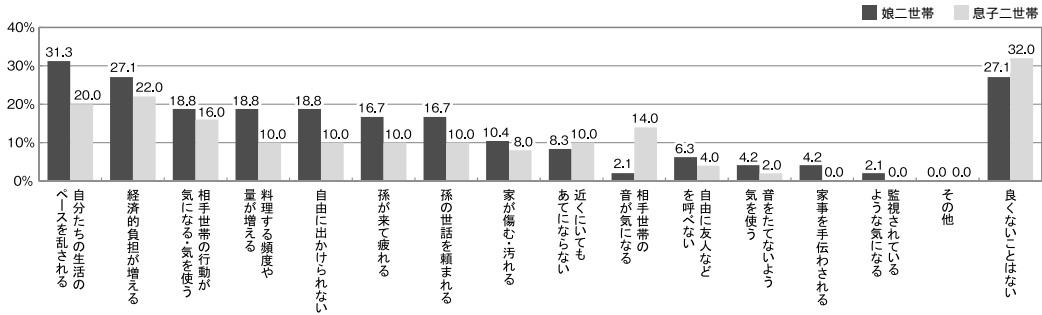
図18 二世帯住宅に住んでいることの良さ【子世帯】

親は「娘二世帯」の方が、子は「息子二世帯」の方がデメリットを多く挙げている

親世帯は、「娘二世帯」の方が育児・家事支援頻度、交流頻度が高いことが影響しているのか、「生活のペースを乱される」「経済的負担が増える」などのデメリットを感じる割合が「息子二世帯」より高く、「相手世帯の音

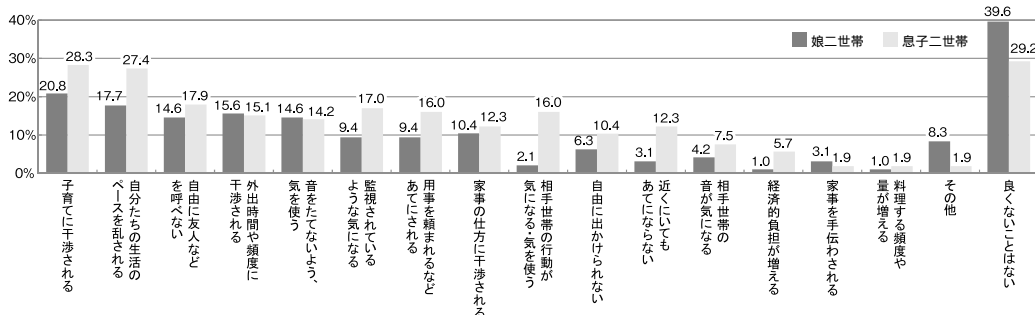
が気になる」は「息子二世帯」の方が高くなっています。

子世帯は、「子育てに干渉される」「自分たちの生活のペースを乱される」「監視されているような気になる」などが、「息子二世帯」の方が高く、「息子二世帯」は、「娘二世帯」よりも交流頻度が低いのですが、それでも親世帯の干渉が気になっているようです。



[親・娘二世帯：N = 48 / 親・息子二世帯：N = 50]

図19 二世帯住宅に住んでいて良くないこと【親世帯】



[子・娘二世帯：N = 96 / 子・息子二世帯：N = 106]

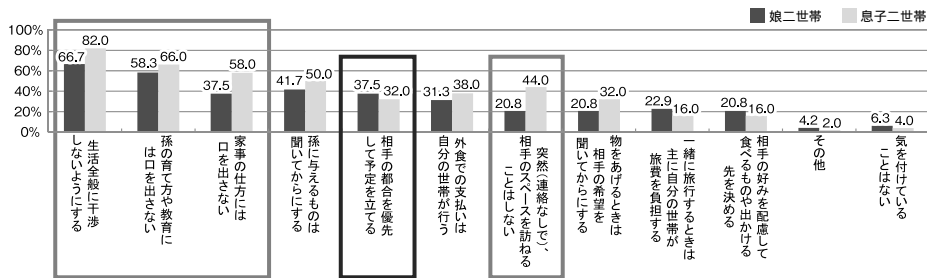
図20 二世帯住宅に住んでいて良くないこと【子世帯】

交流について気を付けていることは、「息子二世帯」の親の方が「娘二世帯」の親よりも多い

親世帯は、「息子二世帯」の方が交流について気を付けている割合が高く、特に「生活全般」「家事」「育児」に干渉しないよう、また、突然子世帯を訪ねないように

気を付けています。「娘二世帯」では、育児・家事支援で頼られているせいか、「相手の都合を優先して予定を立てる」が高くなりました。

子世帯は娘・息子どちらも大きな差は見られません。



[親・娘二世帯：N = 48 / 親・息子二世帯：N = 50]

図21 子世帯との交流について、気を付けていること【親世帯】

「娘二世帯」の方が、子世帯の親への感謝も、親世帯が感謝してもらいたいと思う気持ちも強い

子世帯は、「娘二世帯」の方が「親世帯に感謝している」割合が高く、育児・家事支援を高い頻度で受けていることが影響していると考えられます。

親世帯も、「娘二世帯」の方が「子世帯に感謝してもらいたい」割合が高く、娘世帯の育児や家事を手伝ってあげている、という気持ちの表れではないでしょうか。

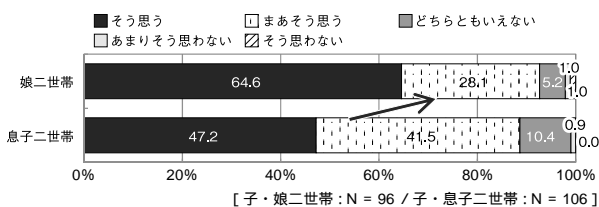


図22 親世帯に感謝している【子世帯】

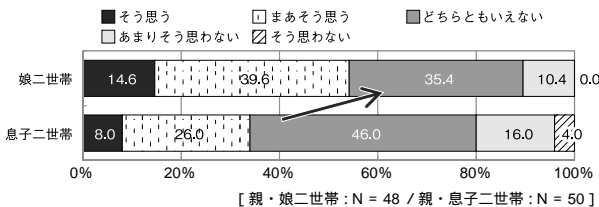


図23 子世帯に感謝してもらいたい【親世帯】

親の満足度は変わらない。子の満足度は「娘二世帯」の方が高い

親世帯の満足度は娘・息子ともにほぼ同じです。親世帯は「娘二世帯」の方が生活のペースを乱されるなどのデメリットを多く上げていますが、孫の成長を見ることができたり、助け合えるメリットも感じているためと考えられます。

子世帯の満足度は「娘二世帯」の方が「息子二世帯」よりも高く、娘世帯は育児支援などのメリットを強く感じているのに対し、息子世帯は子育て等への干渉が気になっていることが影響していると考えられます。

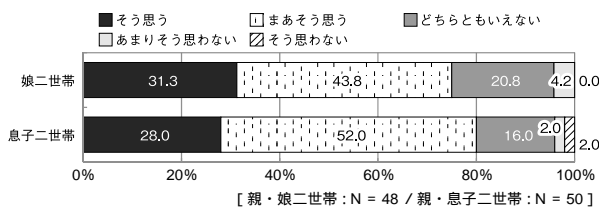


図24 二世帯住宅に住んでいることに満足している【親世帯】

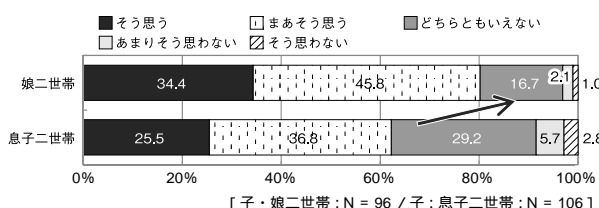


図25 二世帯住宅に住んでいることに満足している【子世帯】

3. 二世帯住宅のタイプ(室内で行き来できるか)による比較

3-1 親世帯と子世帯の交流内容と交流頻度

親と子の世帯が会う頻度は、「行き来できる」方が高い

交流の実態について、「両方の世帯全員が集まる頻度」と「孫が祖母と会う頻度」を見ると、「行き来できる」方が、家族同士が会う頻度が高くなりました。「両方の

世帯が集まる頻度」は「行き来できる」では「週に1回以上」が4割を超えますが、「行き来できない」では3割に満たず、同じ二世帯でも住宅のタイプによる差があることが分かります。

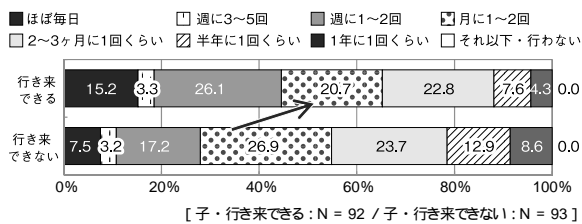


図26 両方の世帯全員が集まる頻度

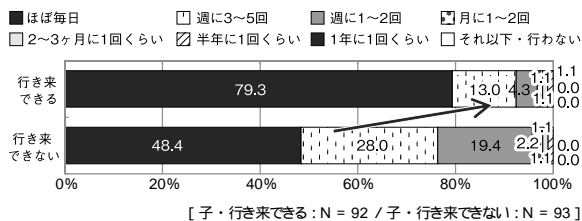


図27 孫が祖母と会う頻度

育児支援の頻度は、「行き来できる」方が高い

育児支援のうち頻度の高かった「孫の預かり」と「孫をお風呂に入れる」について見ると、「行き来できる」方が活発に支援が行われていることが分かります。室内で行き来できる方が孫の面倒を見やすく、子世帯も育児を頼みやすいのではないのでしょうか。

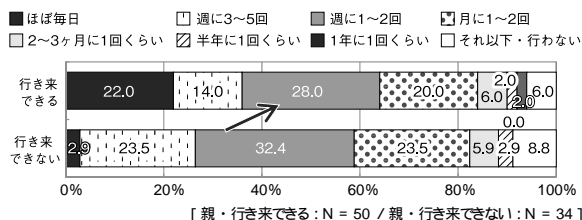


図28 親世帯のスペースで孫を預かる頻度

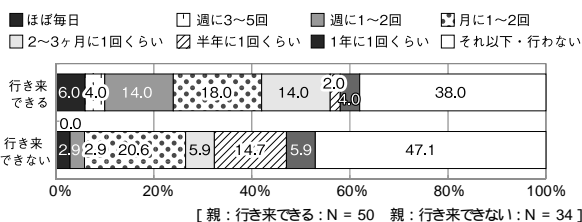


図29 孫をお風呂に入れる頻度

料理を手伝ってもらう場面は、「行き来できる」方が多い

両世帯に「料理を手伝ってもらうこと」を聞いたところ、日常的な手伝いの割合は変わらないが、「お祝いや行事」「具合が悪い」「留守にする」などの場面では、「行き来できる」方が高くなりました。「行き来できる」方が会う頻度が高いため、外出や具合が悪いなどの変化が分かりやすいことが影響していると考えられます。

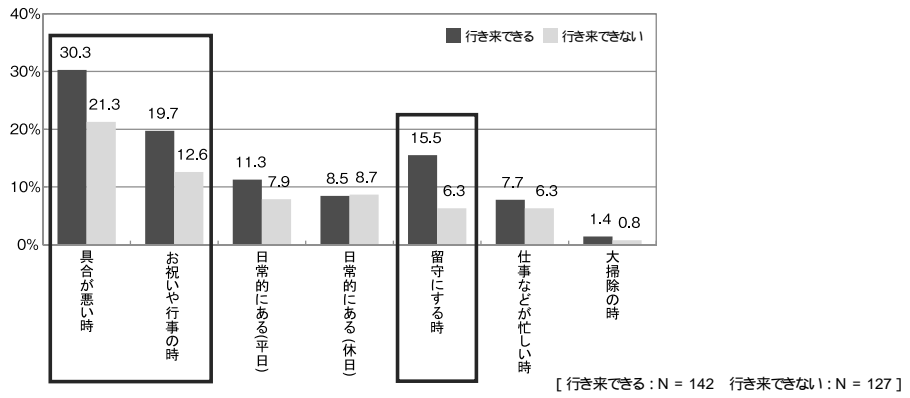


図30 相手世帯に料理を手伝ってもらうこと

3.2 二世帯住宅居住に対する評価

子世帯は、「行き来できる」方が二世帯住宅の良さを強く感じている。親世帯はどちらのタイプも同程度

二世帯住宅に住んでいる良さを聞いたところ、親世帯は「行き来できる」が高い項目と「行き来できない」方

が高い項目が混在しています。子世帯は「行き来できる」方が、「育児を手伝ってもらえる」「親の老後が安心」など、二世帯住宅ならではの様々なメリットを感じています。

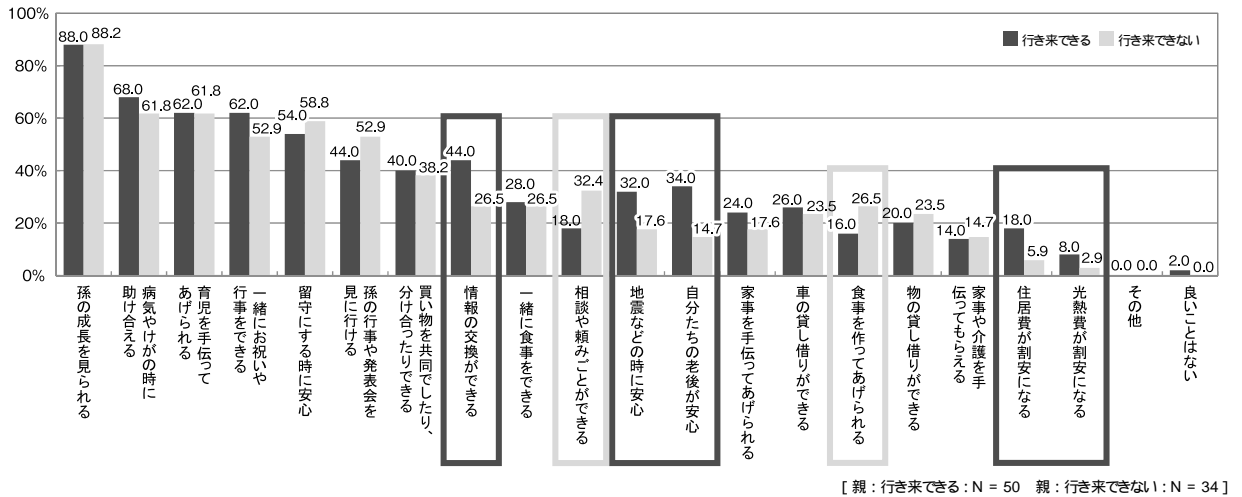


図31 二世帯住宅に住んでいることの良さ【親世帯】

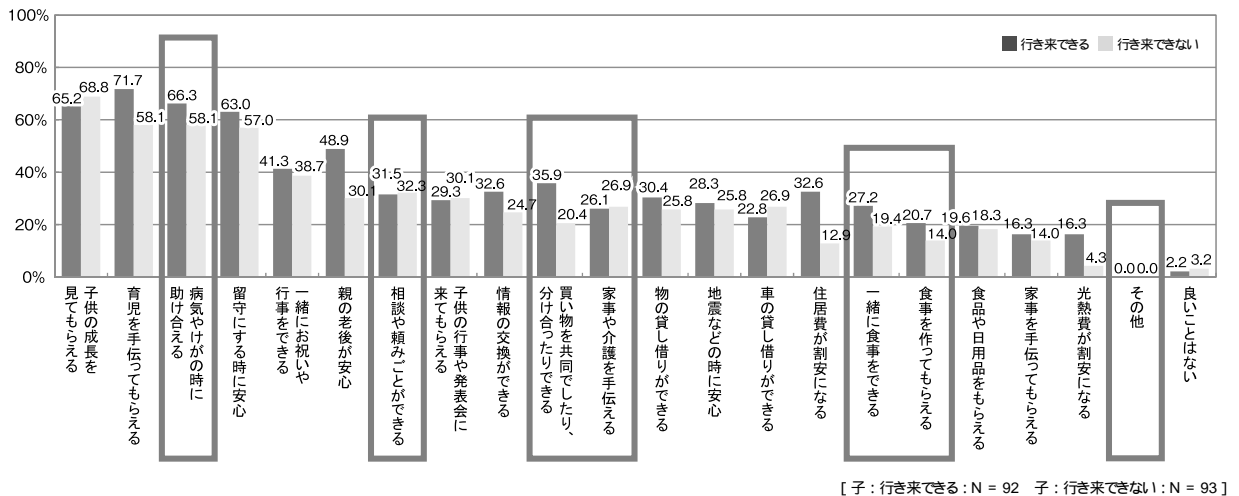


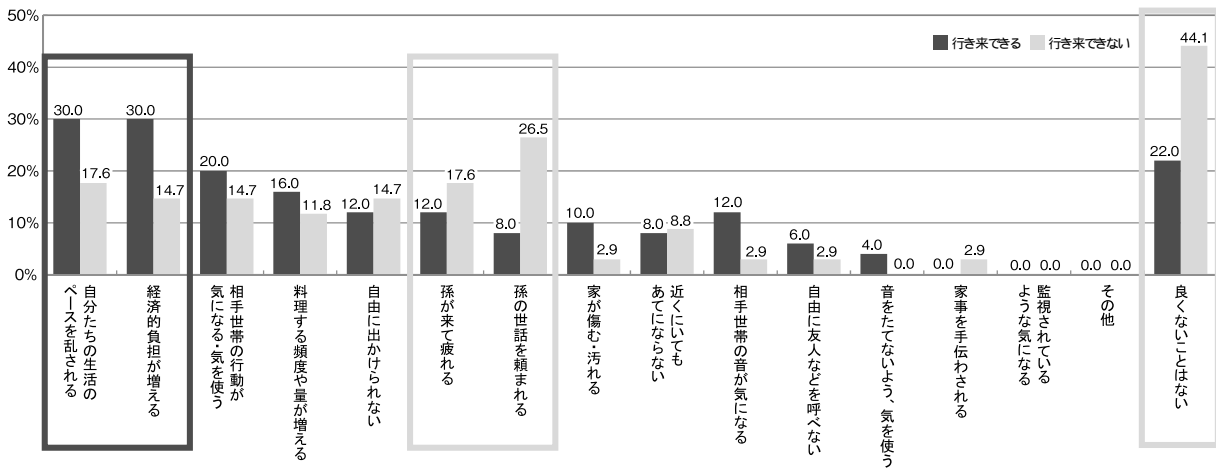
図32 二世帯住宅に住んでいることの良さ【子世帯】

二世帯住宅のデメリットは「行き来できる」方が感じている

二世帯住宅の良くないことを聞いたところ、両世帯共に「行き来できない」方が、「良くないことはない」の割合が高く、「行き来できる」方がデメリットを感じています。具体的には、「行き来できる」方が会う頻度や育児支援頻度が高いせいか、親世帯は「生活のペースを乱される」「経済的負担が増える」など、子世帯は「子育てへの干渉」「自由に人を呼べない」「音をたてないよ

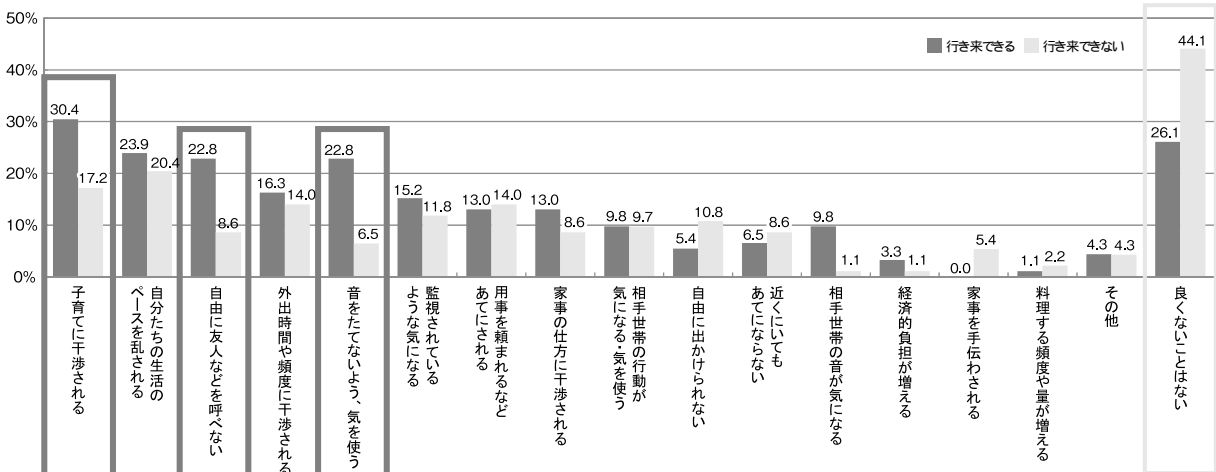
う、気を使う」などが「行き来できない」より高くなりました。

「行き来できない」方が高い項目としては、親世帯の回答で「孫が来て疲れる」「孫の世話を頼まれる」があります。図28、図29で見た通り、孫を介した交流は「行き来できる」方が高いのですが、「行き来できる」二世帯住宅に住む親世帯は、孫が自分たちのスペースに来たり、そこで孫の世話をするのは当たり前という意識があり、良くないこととは感じないのではないのでしょうか。



【親：行き来できる：N = 50 親：行き来できない：N = 34】

図33 二世帯住宅に住んでいて良くないこと【親世帯】



【子：行き来できる：N = 92 子：行き来できない：N = 93】

図34 二世帯住宅に住んでいて良くないこと【子世帯】

親世帯は、「行き来できない」方が子世帯に干渉しないよう気を付けている

子世帯との交流について気を付けていることを親世帯に聞いたところ、「生活全般に干渉しないようにする」「孫の育て方や教育には口を出さない」などで「行き

来できない」方が高くなりました。「行き来できない」タイプに住む親は、子世帯は別の世帯という意識を持ち、適度な距離を保つために気を使っているのではないのでしょうか。

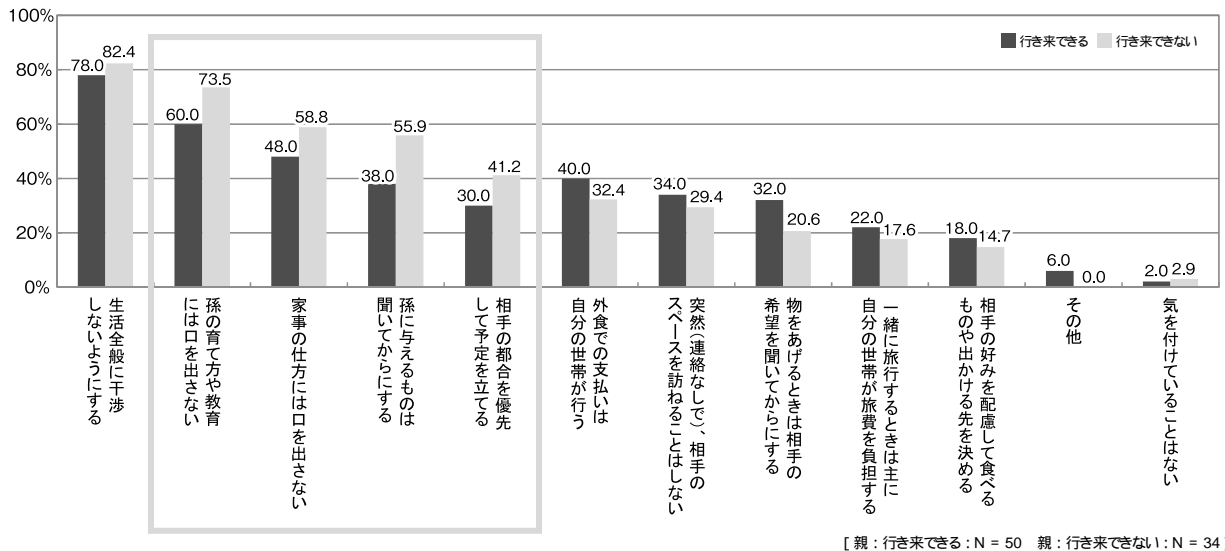


図35 子世帯との交流について、気を付けていること【親世帯】

子世帯は、「行き来できる」方が親世帯に感謝している割合が高い

子世帯に、親世帯に感謝しているか尋ねたところ、「そう思う」と答えた人の割合は「行き来できる」方が高くなりました。交流頻度が高く、親世帯からの育児・家事支援を受けていることによるのではないのでしょうか。

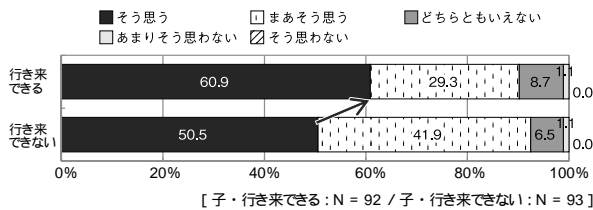


図36 親世帯に感謝している【子世帯】

親世帯は、「行き来できる」方が子世帯との交流を負担に感じる傾向

親世帯に、子世帯との交流を負担に感じているか尋ねたところ、「そう思う」割合に大差はないが、負担に感じない割合は「行き来できない」方が高くなりました。「行き来できる」方が、育児や家事支援の頻度が高く、心の底では負担を感じているようです。

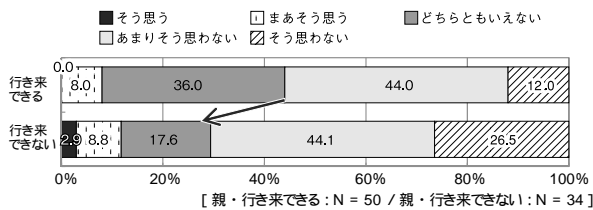


図37 子世帯との交流を、負担に感じている【親世帯】

親世帯は「行き来できない」方が、子世帯は「行き来できる」方が満足

親世帯は「行き来できない」方が、満足だと思える割合が高くなりました。育児・家事支援などの頻度が「行き来できる」より低く、交流を負担に感じている人も少ないことから、孫を中心とした交流を適度に楽しめているのではないのでしょうか。

逆に、子世帯は「行き来できる」方が、満足だと思える割合が高くなりました。親からの育児・家事支援の頻度が「行き来できない」より高いことが影響していると考えられます。

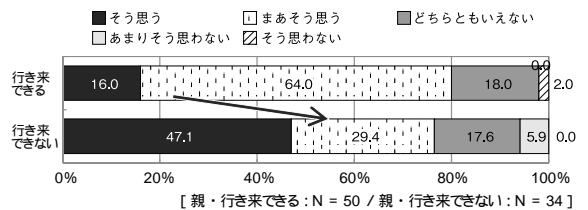


図38 二世帯住宅に住んでいることに満足している【親世帯】

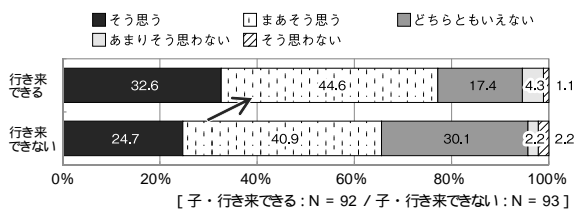


図39 二世帯住宅に住んでいることに満足している【子世帯】

4. まとめ

本調査により明らかにした、二世帯住宅に住む親世帯と子世帯の意識と評価を下表にまとめました。

親世帯と子世帯の交流実態と意識		
	親世帯	子世帯
	<ul style="list-style-type: none"> ・子世帯の育児・家事を支援している 孫の成長を見られる 病気やけがの時助け合える ×生活のペースを乱される ×経済的負担が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・親世帯への感謝の気持ちは大きい ・親世帯への気づかいは少ない 子の成長を見せられる 病気やけがの時助け合える 親の老後が安心 ×子育てに干渉される
	満足度 77.6%	満足度 70.8%
「娘世帯との二世帯住宅」と「息子世帯との二世帯住宅」の比較		
	親世帯	子世帯
娘二世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・子世帯への育児・家事支援頻度が高い 買い物を共同でしたり分け合ったりできる ×生活のペースを乱される ×経済的負担が増える 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物を共同でしたり分け合ったりできる 育児や家事を手伝ってもらえる 息子二世帯よりデメリットが少ない
	満足度 75.1%	満足度 80.2%
息子二世帯	<ul style="list-style-type: none"> 娘二世帯よりデメリットが少ない ×相手世帯の音が気になる 	<ul style="list-style-type: none"> ×子育てに干渉される ×生活のペースを乱される
	満足度 80.0%	満足度 62.3%
二世帯住宅のタイプ（室内で行き来できるか）による比較		
	親世帯	子世帯
行き来できる	<ul style="list-style-type: none"> ・子世帯への育児・家事支援頻度が高い 情報の交換ができる 地震の時や、老後が安心 ×生活のペースを乱される ×経済的負担が増える 	<ul style="list-style-type: none"> 育児を手伝ってもらえる 親の老後が安心 住居費や光熱費が割安 ×子育てに干渉される ×自由に人を呼べない ×音を立てないよう気を使う
	満足度 80.0%（内、そう思う 16.0%）	満足度 77.2%
行き来できない	<ul style="list-style-type: none"> 相談ができる 食事を作ってあげられる 行き来できるよりデメリットが少ない ×孫の世話を頼まれる 	<ul style="list-style-type: none"> 行き来できるよりデメリットが少ない
	満足度 76.5%（内、そう思う 47.1%）	満足度 65.6%

：メリット ×：デメリット 満足度：そう思う＋ややそう思う の合計